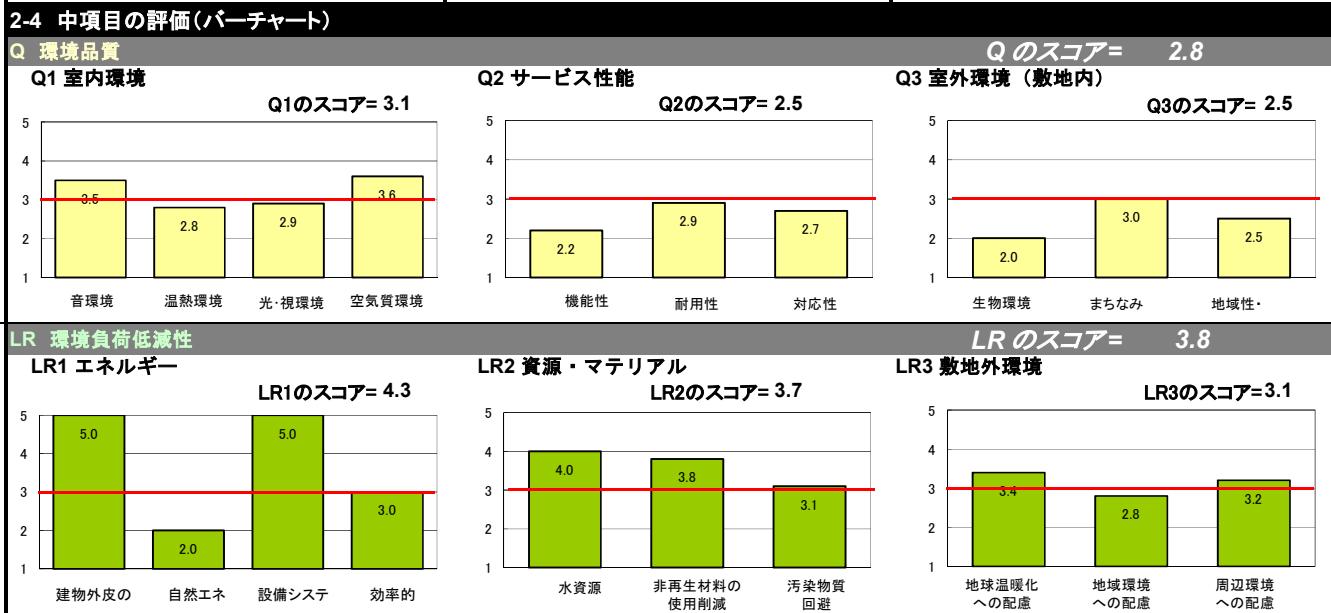
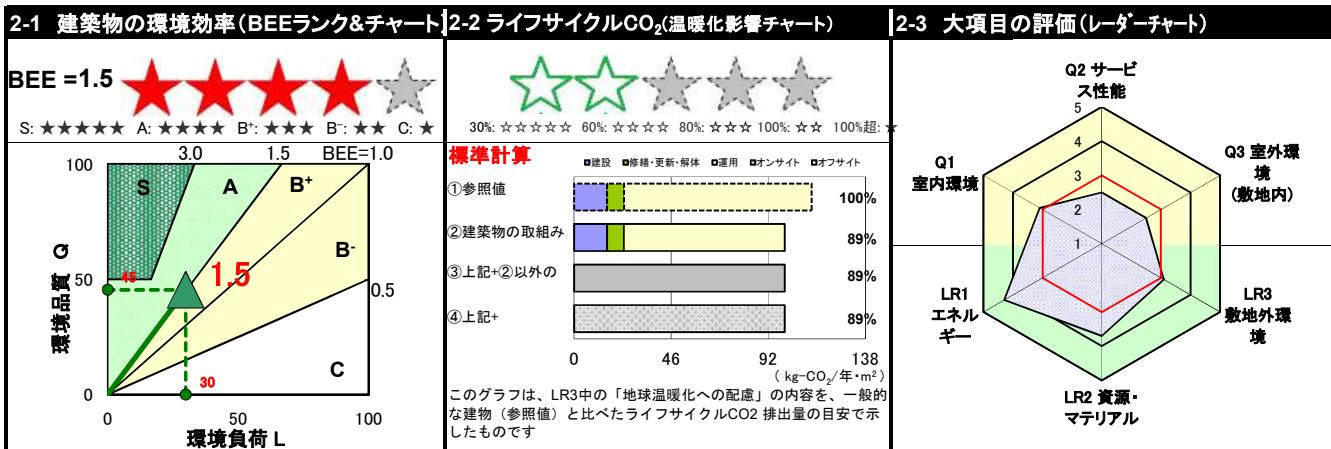


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 23024

建築物名称	I-宮前平
建築主	伊藤忠商事株式会社 建設第一部長 岡本 秀彰
建築物の所在地	川崎市宮前区小台2丁目8番1号
設計者氏名、建築士事務所名	江口 保志 西松建設株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,353.75m ²
用途	寄宿舎
構造	木造 一部 鉄骨造
階数	地上5階
工事完了年月	令和7年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

1-1 建物概要		1-2 外観		23024
建物名称	I-宮前平	階数	地上5F	
建設地	神奈川県川崎市宮前区小台2丁目8番1号	構造	木造	
用途地域	第一種中高層居住専用地域、準防火地域	平均居住人員	120 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2025年1月 竣工	評価の実施日	2023年9月6日	
敷地面積	1,160 m ²	作成者	西松建設株式会社一級建築士事務所 江口 保志	
建築面積	678 m ²	確認日	2023年9月6日	
延床面積	2,354 m ²	確認者	西松建設株式会社一級建築士事務所 江口 保志	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要			実績重点項目スコア合計/ 重点項目最高点のスコア合計 (5点満点)	重点項目への貢献点(注) (5点満点)	
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。				
緑の保全・回復(G)		Gの平均点		2.8	
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準を満たしている 植栽により良好な景観を形成している 緑被率、水被率、中・高木の合計水平投影面積率13.3%		2.3/4.3	2.6	
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象データを参照、地表面対策面積率16.7%		0.5/0.8	3.0	
地球温暖化防止対策の推進(W)			Wの平均点	3.4	
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	レースカーテンとバルコニーで昼光制御		1.6/2.0	3.9	
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準を満たしている 緑被率、水被率、中・高木の合計水平投影面積率13.3%		1.1/2.3	2.3	
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱等性能等級4を超える性能 BEI=1.00		4.3/5.0	4.3	
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	節水型器具、節水型便器を採用		3.4/4.7	3.6	
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善			0.5/0.8	3.0	
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)			Rの平均点	3.4	
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数			0.3/0.5	2.9	
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減			3.1/4.0	3.9	
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2/0.4	2.8	
ヒートアイランド現象の緩和(H)			Hの平均点	3.2	
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準を満たしている 緑被率、水被率、中・高木の合計水平投影面積率13.3%		1.1/2.3	2.3	
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱等性能等級4を超える性能 BEI=0.80		4.3/5.0	4.3	
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象データを参照、地表面対策面積率16.7%		0.5/0.8	3.0	

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点

3.3

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要			実績スコア合計/ 最高点のスコア合計 (5点満点)	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点(注) (5点満点)		
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。					
建設段階						
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 軸体材料の耐用年数			0.1/0.1	3.0		
修繕・更新・解体段階						
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築軸体等の継続利用 2.3 軸体材料におけるリサイクル材の使用	鉄筋に電炉材を採用		1.1/1.3	4.0		
運用時のエネルギー						
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱等性能等級4を超える性能 BEI=0.80		4.3/5.0	4.3		

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階									
配慮項目	重点項目					環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
		G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル						—					
1.2 遮音						T-2以上					
1 開口部遮音性能						—	4.0	0.15	3.3	1.00	3.5
2 界壁遮音性能						—	3.0	0.50	3.0	0.50	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						—	5.0	0.50	3.6	0.50	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						—	5.0	1.00	5.0	0.30	
1.3 吸音						—	—	—	3.0	0.20	
—						—	—	—	3.0	0.20	
—						—	—	—	3.0	0.20	
—						—	—	—	—	—	
2 溫熱環境											
2.1 室温制御											
1 室温						—	2.6	0.35	2.9	1.00	2.8
2 外皮性能						—	3.0	0.50	3.7	0.50	
3 ゾーン別制御性						—	3.0	0.63	3.0	0.63	
2.2 湿度制御						—	—	—	3.0	0.38	
2.3 空調方式						—	—	—	1.0	0.20	
—						—	—	—	3.0	0.30	
3 光・視環境											
3.1 昼光利用											
1 昼光率						—	2.3	0.25	3.4	1.00	2.9
2 方位別開口						—	1.8	0.30	3.4	0.30	
3 昼光利用設備						—	1.0	0.60	5.0	0.50	
3.2 グレア対策						—	—	—	—	1.0	
1 昼光制御						—	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.3 照度						—	—	—	2.0	0.30	
3.4 照明制御						—	—	—	2.0	4.0	
—						—	—	—	2.0	1.00	
—						—	—	—	3.0	0.15	
—						—	—	—	3.0	0.25	
4 空気質環境											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質						—	3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.2 換気						—	4.0	0.60	4.0	0.63	
1 換気量						—	3.0	0.40	3.0	0.38	
2 自然換気性能						—	3.0	0.50	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						—	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理						—	—	—	—	—	
1 CO ₂ の監視						—	—	—	—	—	
2 喫煙の制御						—	—	—	—	—	
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ							—	0.30	—	—	2.5
1 広さ・収納性						—	1.6	0.40	2.6	1.00	2.2
2 高度情報通信設備対応						—	1.0	0.40	3.0	0.60	
3 パリアフリー計画						—	—	—	3.0	1.00	
1.2 心理性・快適性						—	1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観						—	1.0	0.40	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						—	1.0	1.00	1.0	0.50	
3 内装計画						—	3.0	0.30	3.0	0.50	
1.3 維持管理						—	3.0	0.50	3.0	0.50	
1 維持管理に配慮した設計						—	—	—	—	—	
2 維持管理用機能の確保						—	—	—	—	—	
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振							—	2.9	0.30	—	2.9
1 耐震性(建物のこわねにくさ)						—	3.0	0.50	—	—	
2 免震・制震・制振性能						—	3.0	0.80	—	—	
2.2 部品・部材の耐用年数						—	3.0	0.20	—	—	
1 軸体材料の耐用年数						—	2.0	0.20	—	—	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						—	2.0	0.10	—	—	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						—	3.0	0.10	—	—	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						—	5.0	0.20	—	—	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						—	2.0	0.20	—	—	
6 主要設備機器の更新必要間隔						—	—	—	—	—	
2.4 信頼性							—	3.0	0.20	—	
1 空調・換気設備						—	3.0	0.20	—	—	
2 給排水・衛生設備						—	3.0	0.20	—	—	
3 電気設備						—	3.0	0.20	—	—	
4 機械・配管支持方法						—	3.0	0.20	—	—	
5 通信・情報設備						—	3.0	0.20	—	—	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり						3.0	0.30	2.6	1.00	2.7
	1 階高のゆとり						-	-	2.2	0.50	
	2 空間の形状・自由さ						1.0	-	3.0	0.60	
	3.2 荷重のゆとり						-	-	1.0	0.40	
	3.3 設備の更新性						3.0	1.00	3.0	0.50	
	1 空調配管の更新性						3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性						3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性						3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保						3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)							-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出	G	W	H				2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	G						3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮							2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	G	W	H				2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W	H				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー							-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		W	H				5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		W	H				2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		W	H				5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用							3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価							-	-	-	-	
4.1 モニタリング	W		H				3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制	W		H				3.0	-	-	-	
集合住宅の評価							3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	W		H				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	W		H				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル							-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護		W	R				4.0	0.20	-	-	4.0
1.1 節水							4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用							4.0	0.60	-	-	
1. 雨水利用システム導入の有無							4.0	1.00	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無							-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減							3.8	0.60	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減	W	R					-	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R					3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R					5.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R					5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R					3.0	0.11	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R					3.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避							3.1	0.20	-	-	3.1
3.1 有害物質を含まない材料の使用							5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避							2.3	0.70	-	-	
1 消火剤	W						2.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	W						2.0	0.33	-	-	
3 冷媒	W						3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境							-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		W					3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮							2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止							3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W	H				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制							2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			R				3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			R				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			R				2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			R				2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮							3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止							3.0	0.40	-	-	
1 騒音							3.0	1.00	-	-	
2 振動							-	-	-	-	
3 悪臭							-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制							3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制							3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制							3.0	0.30	-	-	
3 日照阻害の抑制							4.4	0.20	-	-	
3.3 光害の抑制							5.0	0.70	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちはに漏れる光への対策							5.0	0.30	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策							-	-	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画															
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.0			-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	-	-	○	○	-	○	-	○	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	1.0	-	1.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雜排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 転体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		1.0	-	-	1.0	1.0	-	-	2.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0		1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

窓システムSC -	窓の日射熱取得率(η) -	外壁 -	床 -
U値(W/m ² K) 窓システム -	屋根 -	外壁 -	床 -

3.1.1 曜光率

星光率 4.6%	自然換気有効開口面積 3.3%
----------	-----------------

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース .0m ² /人	病床 .0m ² /床	シングル .0m ² ツイン .0m ²
コンセント容量 .0 VA/m ²		

1.2.1 広さ感・景観

天井高 0 m	リフレッシュスペース 0.0%	レストスペース 0.0%
想定耐用年数 0 年		

1.2.2 リフレッシュスペース

想定耐用年数 0 年	想定必要間隔 0 年
想定必要間隔 0 年	

2.2.1 転体材料の耐用年数

想定必要間隔 0 年	想定必要間隔 0 年
想定必要間隔 0 年	

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 0 年	想定必要間隔 0 年
想定必要間隔 0 年	

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年	想定必要間隔 0 年
想定必要間隔 0 年	

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

階高 0 m	壁長さ比率 #####
床荷重 4000 N/m ²	

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指標 10%	建物緑化指標 0%	空地率 40%	水平投影面積率 3%	地表面対策面積率 14%	舗装面積率 0%
BPI/BPI _{Im} -	斤熱等性能等級 等級4を超える 相当	自然エネルギー直接利 0 MJ/年m ²	採光を満たす教室数 80.0%	採光を満たす住戸数 80.0%	

2 自然エネルギー利用

通風を満たす教室数 80.0%	通風を満たす住戸数 80.0%
BPI/BPI _{Im} 非住宅 0.80	住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

3 設備システムの高効率化

雨水利用率 0.0%	特定調達品目 -	エコマーク商品 タイル、タイルカーペット、長尺塩自治体指定の特定品目等	使用比率 5.0%	オゾン層破壊係数(CO ₂) 地球温暖化係数(GWP)
			0	1430
			0	8

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

見付面積比 0% !棟間隔指標Rw 0.37	地表面対策面積率 19.0%	屋根表面対策面積率 0.0%	外壁表面対策面積率 0.0%
見付面積Sb m ² 越風向と直交する最大敷地幅Ws 34.49 m		基準高さHb 3.09 m	

2 自然エネルギー利用

緑地 116m ² 水面 m ² 保水性対策面 m ² 高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 m ²
--